

「境域」と造像

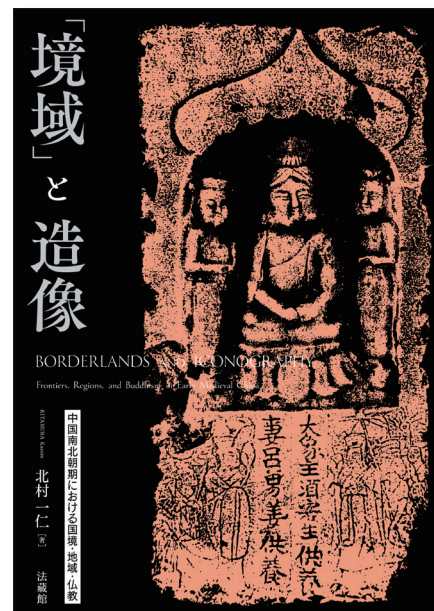
中国南北朝期における
国境・地域・仏教

きたむらかずと

北村一仁「著」（河南農業大学外国語学院副教授）

B5判・上製カバー・五六〇頁・定価二二、〇〇〇円＋税

2026 年 3 月刊行



新発見を含む仏教造像碑記を材料に、
中国南北朝期の国境地域、とくに河南
地域、河東地域の人々のつながりⅡ
「縁」と彼らが形成した社会、そしてそ
れらを包摂する空間を検討し、それら
の歴史的意義を考察する。

前言
はじめに——石刻史料から見た地域社会の「縁」

第一部 河南地域の「境域」と造像

第一編 南北朝後期潁川地区の人々と社会——石刻史料を手掛かりとして
第二編 「白雲等造中興寺石象記」についての「考察」——南北朝後期南陽地区の政治・社会状況を
中心として

第三編 南北朝後期汝水流域地区出土諸碑記の研究

第四編 河南洛寧縣出土、北周牛氏千佛碑に見る北朝東西國境地域

第五編 東魏・北齊期の「豫北」地域における造像と社会事業——義井・義橋・八關齋

附編——録文編

第二部 河東地域の「境域」と造像

第一編 北朝・隋初期の河東地域における諸佛教事業の背景——絳郡地区出土佛教碑記の研究・
序説

第二編 兩魏期における正平高涼楊氏と地域社会——佛教造像事業をめぐる人々とその目的

第三編 北周の軍事據点における造像事業——民衆佛教と河東地域社会

第四編 北朝國境地域における佛教造像事業と地域社会——山西陽城出土、「上官氏等合邑造
釋迦佛像摩崖」を手掛かりとして

第五編 北魏・東魏期における端氏縣酒氏の造像事業

附 酒氏造像補遺——もう一つの酒氏造像・北齊「酒客生造三尊佛碑像記」

第六編 北魏・兩魏期絳州地区の土豪と佛教、續考——山西省聞喜・絳縣の諸造像記語——諸

碑の考察・特に政治的側面について

第七編 北朝期長子縣周邊の地域社会と造像事業——「魏蠻造像記」・「張婆羅門造像記」・「程

哲碑」を手掛かりとして

終章 南北朝期國境地域における造像事業が持つ意義

圖版一覽／あとがき

【著者略歴】1976年生まれ、兵庫縣出身。龍谷大學大學院文學研究科東洋史學專攻博士後期課程
修了。博士（文學）（龍谷大學）。現在、河南農業大學外國語學院副教授。専門は中國史、とくに
南北朝期の政治・社会・佛教史・歴史地理。近年の業績に、「北朝後期河東北部的軍事據点與地域
社会——玉壁城周邊地區的區域特性和社会組織」（『軍事歴史』5、2025年）、「北朝後期～隋代に
おける山西西部呂梁山脈地域の交通路試論——石窟・摩崖、關門・縣城遺跡などを手掛かりとし
て」（『東洋史苑』100・101合併號、2025年）などがある。

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

中国史・仏教

注文書

(書店名)		様冊	
ご担当		法藏館 二二、〇〇〇円＋税	
「境域」と造像 中国南北朝期における国境・地域・仏教 ISBN978-4-8318-5746-0 C3022		北村一仁著 ご住所 お電話 お名前	